

■活動4年目を迎えて

「リソース・ネットじゃんけんPON!」の“コーディネーター”としてプログラムの企画運営を担っている(代表)水戸さんと(会計担当)成田さんにこれまでの活動を振り返ってお話をいただきました。

●参加者等の成長

活動を継続することで、1年目は会場にすら入れなかった参加者が、2年目は会場に入れるようになりました。また、経験したことのない新しいプログラムに家族で参加することで、親は子供の新たな経験に挑戦する態度やボランティアとの関わり方などを通して、子供の成長を特に社会性の成長という面で実感できました。

参加者だけでなく、ボランティアの学生の子供への接し方も、1年目よりは2年目、3年目と上達し、障害者理解を深めることにつながっているのではないのでしょうか。

●プログラムについて

「リソース・ネットじゃんけんPON!」の活動が知られるようになり、周囲に協力者が増えてきました。知り合いが知り合いを紹介してくれ、新たなプログラムの講師を見つけることができたり、例年取り組むプログラムであっても、スタッフ間で反省点や改善点などを出し合い、ブラッシュアップを図ることができています。プログラムの幅が広がり、鑑賞が中心だった内容を“参加型”にアレンジしてみるなど、工夫を重ね、充実してきています。

これからは、より多くの参加者を得るために、PRにも力を入れようと広報用リーフレットも作成しました。



リソース・ネットじゃんけんPON!の皆さん
水戸さん(前列右から2人目)、成田さん(前列左から2人目)



電気通信大学の留学生が講師となった国際交流プログラム

■今後の展望

今後、取り組んでみたいプログラムについては、福祉作業所などと連携した「卒業生が講師となるプログラム」です。

子供たちに、社会で活躍している先輩の姿を見てもらうことは、自分たちの近い将来のイメージを持たせる有効なキャリア教育の機会になるのではないかと考えています。また、講師役を務める卒業生にとっても、在校時、自分がお世話になった「リソース・ネットじゃんけんPON!」への恩返しの機会を得ること、後輩への身近なお手本となることで、自信をつける機会となり、両者にとっての貴重な場となるのではないかと期待しています。

「リソース・ネットじゃんけんPON!」の活動現場では、地域の自治会、商店街の組合、学生と、様々な人たちが自身も楽しみながら、障害のある子供の参加するプログラムを支えている様子がうかがえます。楽しさを共有する経験を重ねることで、確実に地域と学校の関係性を育てています。

